

教職員研究チーム活動状況報告書

代表者の所 属・職・氏名	県立篠山東雲高等学校 職・氏名 教諭 上野 弘和	研究チーム名 (農都ささやま環境学習研究会)
-----------------	-----------------------------	-----------------------------

研究テーマ分類番号 (1 1)

(1) 研究テーマ
「特産でE C O」～地域の特産を用いた環境学習ツールの開発と活用～
(2) 研究経過及び具体的な取組
<p>はじめに</p> <p>「ゴーヤのグリーンカーテンを作っても、子供たちがゴーヤを食べてくれない」という地域の声から地域特産「山の芋」のつるに着目。ウイルスフリー化により生育が旺盛になった山の芋を用いて、プランターによる山の芋グリーンカーテンを考案した。1プランター120gの種芋から約1.5kgの芋が収穫できることを実証した。情報発信を行う中で地域から要望があり、小中学校にて山の芋グリーンカーテンを用いて環境学習・食育活動を行った。</p> <p>1 目的</p> <p>丹波篠山には丹波黒大豆を代表として、多くの特産がある。しかし、「山の芋（ツクネイモ：ナガイモの一種）」においては、山芋（ジネンジョ：ヤマノイモの一種）との名前の混同があり、その良さが地元でも知られていない。そこで、地域の自然環境を保全する観点から、特産「山の芋」のグリーンカーテンを用いた農都篠山のまちづくりに寄与する。また、自然豊かな農都篠山の歴史や文化、そして、地産地消や循環型社会の大切さを子供たちや地域の方々に伝えることを目的とする。</p> <p>2 設置場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・篠山市役所、篠山市内小中学校（9校） <p>3 研究活動について</p> <p>プロジェクトは篠山市内の小中学校にて、総合的な学習の時間などで実施し、小学生とその保護者、地域住民参加型の講習会も行った。環境学習ツールとして検証を行う場も設けた。また、新聞等を通じて地域に情報発信を行い、地域に普及させるための活動を行った。</p> <p>3月25日 篠山市環境課と打ち合わせ（生徒の学習活動として、生徒に主体的に取り組ませる）</p> <p>4月1日 せる）</p> <p>～4月22日 篠山市環境課と篠山市教育委員会で、山の芋グリーンカーテン実践小中学校を募集。市内22校のうち、8つの小中学校から、山の芋グリーンカーテンの応募あり</p> <p>～5月21日 募あり</p> <p>各小中学校にて、高校生が指導を行い、山の芋の植え付け作業を行う</p> <p>※篠山市環境課、まちづくり協議会などとの連携を行い実施した</p> <p>※新聞で情報発信を行った結果、小学校1校が新たに参加し、9校となった</p> <p>なお、県立西宮香風高校など、他の高校や一般市民も参加した</p>

- 6月 3日～ 山の芋の萌芽（ぼうが：芽が出ること）の観察
- 6月25日～ 山の芋のツルの摘心（ツルの本数を増やすため）
- 8月10日 環境測定データの採取（気温、湿度、照度、CO2濃度、O2濃度、表面温度など）
- 8月11日 山の芋を用いた地産地消レシピの試作（家庭料理レシピ）
- 8月22日 環境測定データの採取（気温、湿度、照度、CO2濃度、O2濃度、表面温度など）
- 9月18日 篠山市環境課と収穫についての打ち合わせ
- 10月18日～ 各校にて、葉の黄化を確認
- 10月26日 山の芋を用いた地産地消レシピの試作（お弁当レシピ）
- 10月27日～ 収穫と収量調査（高校生と小中学生、篠山市環境課）
- 10月30日 山の芋を用いたお弁当でJA青壮年部主催「お弁当の日」で生徒たちが審査員特別賞を受賞した
- 11月 8日 収穫した山の芋で食育活動（篠山市立古市小学校：山の芋カレー）
- 11月16日 山の芋グリーンカーテンの普及に向けたマニュアル化（高校生と篠山市環境課）
- 11月29日 あしたのまちづくり活動賞にて、山の芋グリーンカーテンを用いたまちづくり活動が優秀賞を受賞した
- 12月14日 収穫した山の芋で食育活動（篠山市立篠山小学校：山の芋カレー）
これらの取り組みが地球温暖化防止活動環境大臣表彰を受賞する
- 1月17日 収穫した山の芋で食育活動（篠山市立篠山小学校：山の芋カレー）
- 2月上旬 課題研究発表会にて、生徒たちがこれらの研究成果を発表する
収穫した山の芋で食育活動（篠山市立篠山東中学校：山の芋カレー）

4 受賞（この活動を通じて、生徒たちが受賞したもの）

- ・地球温暖化防止活動環境大臣表彰（環境省主催）
- ・あしたのまち・くらしづくり活動賞 優秀賞（あすの兵庫を創る生活運動協議会主催）
- ・「お弁当の日」 審査員特別賞（兵庫県農協青壮年部協議会主催）

5 波及効果と研究のまとめ

地域特産「山の芋」を用いることで、グリーンカーテンによる節電効果のみならず、多種多様な効果が得られた。特産を守ってきた先人たちの知恵と地元高校生のアイデアで農都宣言をした篠山市に「ふるさとの自然を五感で楽しむ環境学習ツール」として提供することができ、特に環境学習やふるさと学習に貢献できた。今後は、地域全体を巻き込んだ農都のまちづくりを行うため、多くの参加者の協力を得ることで、地域全体の環境に対する意識向上を促し、世代間交流や協同の場をつくることで、町全体を活性化できると考えている。さらに地域特産「山の芋」の消費拡大にも発展する活動としての特産振興の役割を果たすことが期待できる。

「特産でECO」は食の生産から食育、地産地消を結ぶ架け橋としての役割をもち、普段の私たちの食生活を見つめ直す機会としても活用することができる。そして、最終的にはこの活動をモデルに市内各地域のまちづくりのあり方を見直すきっかけになってほしい。